

フェリーきょうと 瀬戸内海夜景航路の船旅

東京都 沼田 雷介

2月11日(土)、日本クルーズ&フェリー学会の船上新年会に参加するため、名門大洋フェリーのフェリーきょうとで大阪南港から新門司まで乗船しました。19時50分に大阪南港を出港し、翌朝8時30分に新門司港に入港する便です。

フェリーきょうとは一昨年末に三菱重工下関造船所で建造された15,025総トン、全長195メートルのまだ新しいフェリーです。



フェリーやクルーズに熱い日本クルーズ&フェリー学会の会員の人たちは、待合所に集合したときから船の話が弾んでいました。

粋な計らいで、一般の乗客より早く乗船して操舵室の見学会が開催されました。電子海図と従来の紙の海図を併用していることや、操舵室で機関室を遠隔操作する機器など最新の操舵室の様子を見ることができました。



操舵室見学

この船上新年会には、乾さん、中濱さん、柴田さん、沼田の4名の航海クラブ会員も参加しました。buffet形式の夕食はお馴染みのメンバーでテーブルを囲みました。



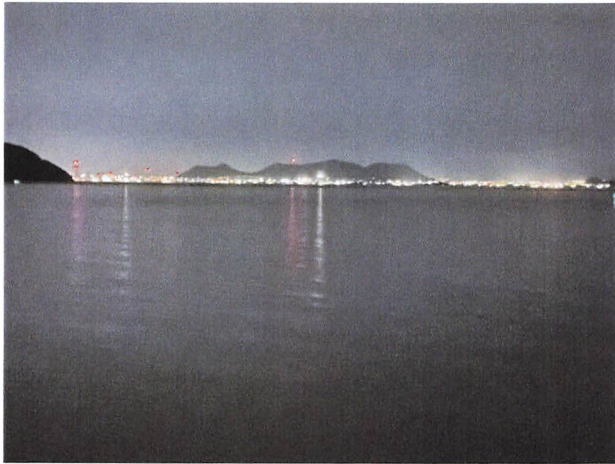
乗客定員675名でこの日は満室でした。10代~20代の若い人たち、カップル、家族連れなど乗客層は様々でした。お盆休みや年末年始など休暇のシーズンでもなくとも、週末は毎航ほぼ満室になるそうです。夕食後、暫く中濱さんたちとロビーと展望ラウンジで船談義をしていると高松の夜景が近付いてきました。ここだけは煌々と輝いています。デッキに佇んでいると瀬戸大橋を通過しました。瀬戸内の夜景はいつまで眺めていても飽きません。



フェリーきょうとの回廊



展望ラウンジ



煌々と輝く高松の夜景



瀬戸大橋通過

明け方、プロムナードデッキに出ると、熱心にカメラを構えている人たちがいました。日本クルーズ&フェリー学会の人たちでした。朝焼けを眺めながら船の話が弾みました。皆さんそれぞれフェリーに詳しく、勉強になりました。



朝食を柴田さんと乾さんとテーブルを囲んで歓談していると、新門司に近付いてきました。朝の新門司港は東京～徳島から入港したフェリーびざん、泉大津～新門司航路のひびき、フェリーきょうと

の前を航行していた神戸～新門司航路のやまとで賑わっていました。



フェリーで賑わう朝の新門司港

8時30分に新門司港に入港。一般の乗客下船後に機関室見学会がありました。会員の皆さんから鋭い質問の数々。さすがです。



機関室見学

新門司港から門司駅、小倉駅まで無料送迎バスでそれぞれ帰路に着きました。その後地元の友人と待ち合わせがあり下関駅に着くと、目の前にキャッチャーボートが見えました。



駅から徒歩10分程の長閑な漁港に佇む1998年10月建造、720総トン、全長69メートルの勇新丸は手入れが行き届いていて、大きく見えました。